

Dialog.Inc

IT & LOGISTICS BUSINESS PARTNER

物流CLO制度まるわかりセミナー ～手軽に重量計算、圧倒的コスパのWMS活用～

2025年8月26日

主催：株式会社ダイアログ 共催：株式会社BIPROGY



ISO27001



21001068

本書に含まれる情報は、貴社内部でのご検討、評価の目的のために提供されるものです。貴社内でのご使用、複製、開示は、この目的のために必要な範囲でのみお願いいたします。貴社との間で正式な契約が成立した場合には、それによってこれをお取り扱いいただきます。なお、貴社にて既に取得されている情報については、これらの制限は及びません。

2025/8/26

Copyright © 2025 Dialog.Inc. All Rights Reserved.

1

会社紹介

会社名	株式会社ダイアログ（英名：Dialog.inc）
設立年月日	2013年11月08日
決算期末	4月末（現在 13 期目）
所在地	東京本社 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-12-3 第一誠実ビル8F 大阪事業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-3-7 MPR新大阪ビル 7F ダイアログ川越DCセンター 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9-3 MFLPプロロジスパーク401
電話番号 / FAX番号	東京本社代表 03-6421-7455 / 03-6421-7456
資本金	291,500,000円
業務内容	WEBアプリケーションシステム企画・開発 スマートフォンアプリ企画・開発 物流・販売等業務基幹システム導入・コンサルティング 業務システム用機器選定／販売

役員構成	代表取締役 方志 嘉孝 常務取締役 米谷 諒 取締役 浦谷 拓夢 取締役 大屋 重幸
監査役	監査役 橋本健二 (元株式会社東京都民銀行役員 元とみんコンピューター株式会社代表取締役)
従業員数	103名 (正社員 98名 アルバイト・パート 5名)
子会社	株式会社MONO（古物商） 物流機器・資材中古販売・レンタル事業 株式会社Yellow Tail 3PL、ECフルフィルメント
ホームページ	https://www.dialog-inc.com

認証



【認定番号】

第21001068(05)号

*1 一般財団法人日本データ通信協会は、電気通信事業分野のプライバシーマーク付与認定指定機関です。

このマークは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会が運用する「プライバシーマーク制度」に基づいて、当社の個人情報の取扱いがJIS Q 15001「個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムの要求事項」に準拠して、適正に行われていることを認定した証として、その使用を許可されたものです。



ISO27001

【審査機関】エイエスアル株式会社

【適用規格】JIS Q 27001:2014 (ISO/ IEC 27001: 2013)

【登録番号】J0267

【登録年月日】2023年4月28日 ~ 2025年10月31日

【登録範囲】

Webアプリケーションシステム企画／開発、スマートフォンアプリ企画／開発、業務機関システム導入／コンサルティング、業務システム用機器選定／販売

倉庫管理システム WMS

ダイアログ自社プロダクトのクラウド型在庫倉庫管理システム「W3」エンジンをベースに、顧客の規模に合わせてパッケージSIとSaaSサービスを提供

W3 sirius エンタープライズ向け
独自環境・カスタマイズ提供



弊社精鋭のコンサルタントがロジスティクス戦略・業務改革など経営戦略・事業展開に合わせた構想（青写真）を策定し、W3をカスタマイズ導入するサービス

サプライチェーンに貢献する
次世代クラウド型
在庫・倉庫管理システム



W3 mimosa 中小型物流向け
共同環境・標準提供



D2Cや新規事業、中小規模物流にて、将来的な事業拡大も踏まえて、即時標準導入向け完全SaaS型モデルでのご提供するサービス

物の管理が、
最後に
モノをいう。



多業界対応
(アパレル・食品・医薬
etc)

**ストックポイント
を仮想化**
(倉庫・店舗バックヤード
etc)

業務コピー
(既存業務をそのまま)

設定のみ
(インターフェース・帳票)

**拠点追加にも
柔軟に対応**

**一元閲覧・
操作**

即日利用可
(Android・iOS対応)

ダッシュボード

マテハン・ロボットの連携

W3 siriusは既に多様なロボットメーカーとの自動連携を実現しており、生産性に加え、人材採用数削減に貢献しております。その他、Webアプリケーション開発技術と、物流現場作業改善の双方から、お客様にフィットした、デバイス・ロボット選定、開発まで一貫して行います。

GTP・棚搬送型



アソート支援 GAS



オムニソーター



AMR・ピッキング支援

ACR



AMR



マルチピッキングカート



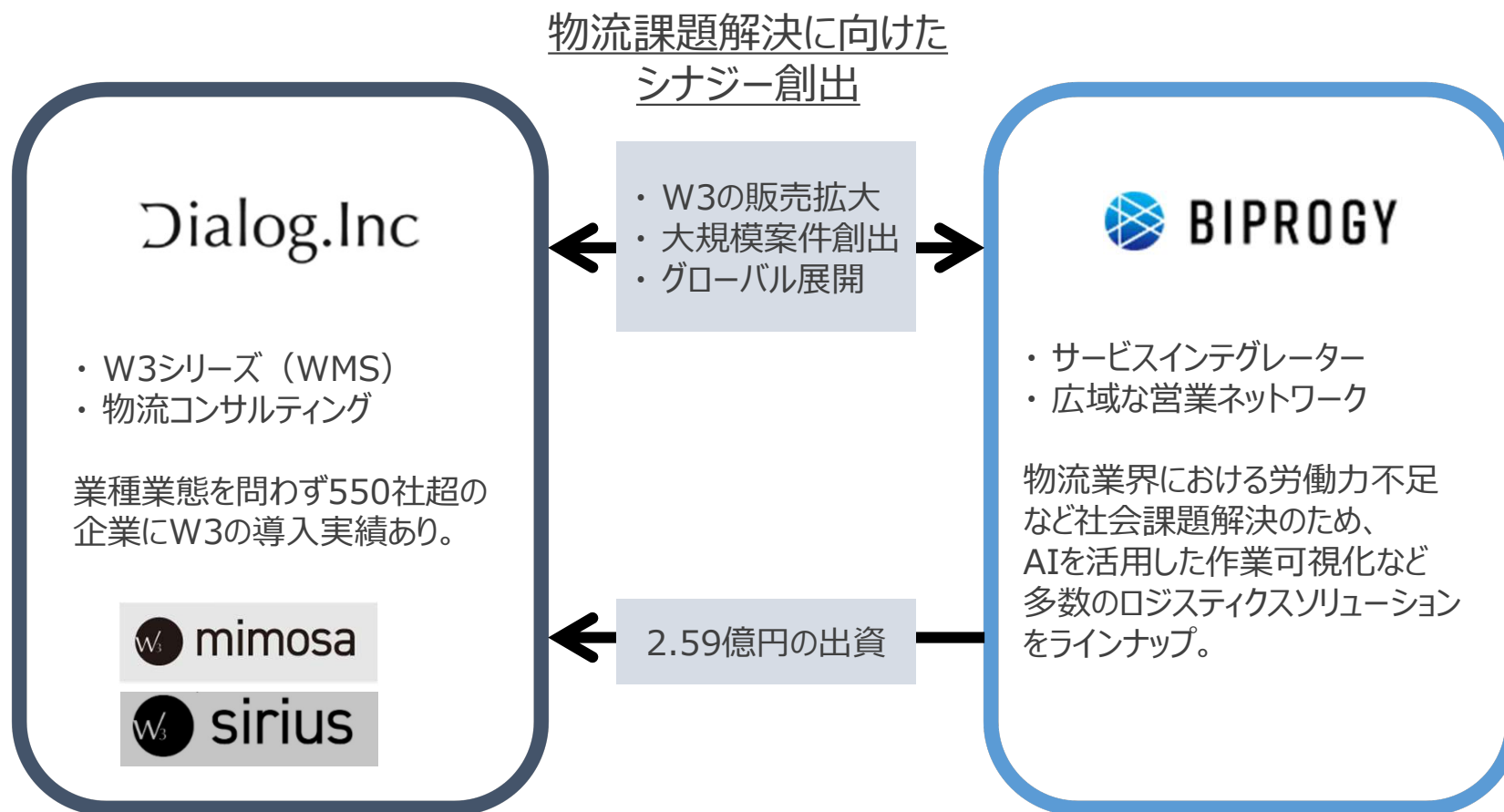
t-Sort



本日の開催について ～ダイアログ・BIPROGY連携シナジー～

2024年度にダイアログとBIPROGYは業務資本提携をいたしました。

ダイアログが培ってきた物流・製造業界における業務知見および製品力・技術力と、BIPROGYのシステムインテグレーションの知見という両社の強みを生かし、より幅広い物流課題の解決を目指した取り組みを行っております。



アジェンダ

- 本セミナーの目的
- CLO設置義務化と、関連する法令動向
- 物流効率化法の流れ
- CLO設置義務化を現場目線で読み解く
- ダイアログ・BIPROGYの提供するサービス

本セミナーの目的

2026年4月から、

特定荷主・特定連鎖化事業者に対して、

CLO : 物流管理統括管理者 (Chief Logistics Officer) = 物流の適正化・生産性向上に向けた取り組みの責任者の設置が義務化されます。

本セミナーではそれに関わるポイントを整理し、皆様にお伝えいたします。

是非、2026年に向けた準備や法令対応のポイントをつかんでいただければと思います。

CLO設置義務化と、関連する法令動向

CLO設置義務化の背景

労働力不足により物流が停滞してしまう、という**2024年問題**に対応していくために、

2024年4月26日に

「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」および「貨物自動車運送事業法」の一部を改正する法律

= 物流改正法 が

成立し、同年5月15日に公布される

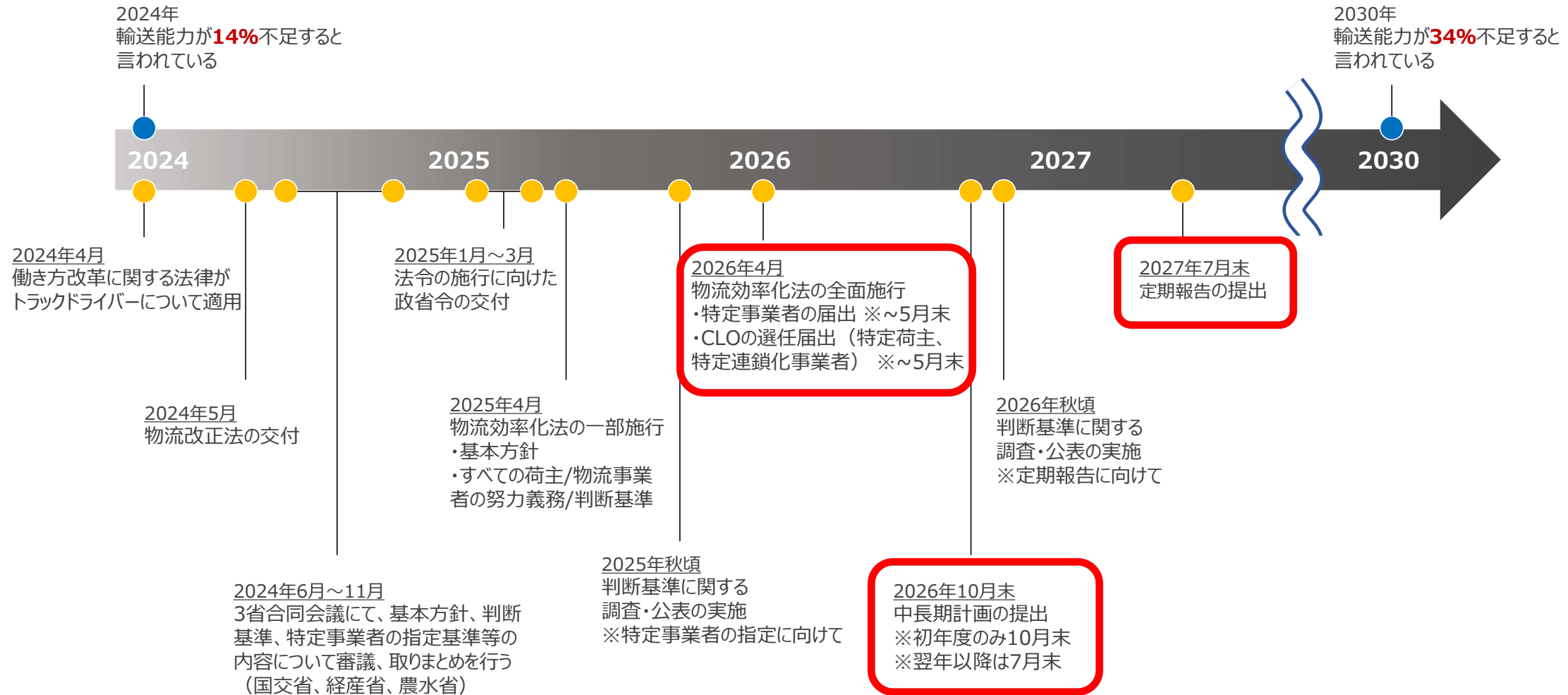


特定事業者のうち**荷主・連鎖化事業者**に対し、

物流統括管理者（CLO）の選任を**義務化**

（2026年4月～）

物流効率化法の施行に関する流れ



物流効率化法で求められていること

それでは、物流効率化法ではどのようなことが唱えられているのでしょうか？

物流効率化法では、**物流の持続的成長**を図るため、

全ての荷主・物流事業者に対し、物流効率化に向けた以下取組を行うことを務める必要がある、と決めました。

積載効率の向上等

1回の運送でトラックに積載する
貨物量を増加する

荷待ち時間の短縮

ドライバーが到着した時間から、
荷役等の開始時間までの時間を
短縮する

荷役等時間の短縮

荷役（荷積み・荷卸し）等の
開始から終了までの時間を
短縮する

特定荷主・特定連鎖化事業者がすべきこと

物流効率化法では、物流全体への寄与がより高いと認められる一定規模以上の事業者については、

特定事業者として指定されます。

その中でも、**特定荷主・特定連鎖化事業者**はどのような対応をすればよろしいでしょうか？

物流効率化法の基準となっている「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組ガイドライン」を照らし合わせて考えると、以下のようなステップが見えてきます。

STEP 1 : 特定荷主・特定連鎖化事業者の該当性チェック

まず、特定荷主・特定連鎖化事業者に該当するか、**貨物量の計算**が必要です。おもに、車両総重量から車両そのものの重さ（自重）を引いた値を算出します。

貨物量が**年間9万トン**を超える場合は「**特定荷主**」「**特定連鎖化事業者**」として申告が必要になると判断できます。

※次頁に特定事業者の種類ごとの指定基準値を掲載

特定荷主・特定連鎖化事業者がすべきこと

特定事業者の種類ごとの指定基準値について

特定事業者の種類	指定基準値
特定荷主 (メーカー、商社、等)	取扱貨物の重量： 9万トン以上 (上位3,200社程度)
特定連鎖化事業者 (フランチャイズ本部)	
特定倉庫業者	貨物の保管量： 70万トン以上 (上位70社程度)
特定貨物自動車 運送事業者等	保有車両台数： 150台以上 (上位790社程度)

※経済産業省審議会資料より

特定荷主・特定連鎖化事業者がすべきこと

重量計算パターンについて

特定事業者の種類	指定基準値
商品マスタ等で商品の重量データを整備している場合	当該データを元に集計
商品の容積を把握している場合	1立方メートルあたり280kgとして換算する
上記に該当する情報がない場合	輸送するトラックの 最大積載量 を貨物の重量として換算する
	売上金額 や 仕入金額 を元に貨物の重量を換算する

※物流効率化法 解説パンフレット（2025年4月）経済産業省より

特定荷主・特定連鎖化事業者がすべきこと

STEP 2 : 現状の定量的な把握

- 荷待ち・荷役作業などにかかる時間 : KPIに掲げられている
- 積載効率 : 低積載効率の改善がKPIに含まれてる
- 輸送距離 : トラック輸送の効率化を考えるために必要な指標
- その他 : 運送時間、運送量、輸送頻度、輸送コストなどの業務実態の可視化

STEP 3 : 具体的な改善策の策定

- 荷待ち時間の短縮化 : トラック予約受付システムの導入、混雑時間を回避した日時指定、等
- 荷役等時間の短縮化 : パレット等輸送用器具の導入、タグ等の導入による検品効率化、フォークリフトや荷役作業員の適切な配置、等
- 積載率向上 : パレット化、コンテナ化、車両の最適化、適切なリードタイムの確保、発送量・納入量の適正化、等
- 輸送の合理化 : 輸送網の集約、モーダルシフト、輸配送の共同化、輸送ルートの見直し、等
- 物流データや資機材の標準化 : 物流に係るデータ・システムの仕様やパレットの規格の標準化
- サプライチェーン全体の連携強化 : 取引先や物流パートナーとの情報共有の強化

STEP 4 : 改善効果の計測とモニタリング

- 定期的なKPIレビュー : 改善項目ごとに目標値（KPI）を設定し、定期的にモニタリング・評価
- データ分析によるボトルネックの解消 : KPI達成ができていない要因についてプロセスを改善

物流効率化の流れ

CLOの役割と要件の整理

CLOに求められる役割

- **社会課題解決と地域社会の持続可能性促進**
- サプライチェーン全体最適実現のための**中長期計画の立案と実行**
- 物流オペレーションの**効率化とリスク管理**
- 改正法に基づく義務等に対する**業務**

CLOの要件

- **経営者**としての視点と能力
- **物流知識**
- データ分析能力
- リスク管理能力
- 持続可能性への理解
- 調整力・外交力

では、今何をすればいいか？

ここまで物流効率化法に関する背景や流れをご説明してきましたが、
それでは今、各企業は具体的に何をすればいいのでしょうか？
改めて整理いたします。

準備① ～特定事業者の指定に向けて～（25年4月～26年3月）

前述の通り、特定事業者かどうかの判断については、国が指定してくれるものではなく、指定基準値に対して自社が特定事業者に該当するかどうか、**自社で**貨物量等の計算を行い、申告を行う必要があります。

荷主・連鎖化事業者

取扱貨物重量の把握 ……取扱貨物重量が**9万トン以上**か？

倉庫業者

保管量の把握 ……貨物の保管量が**70万トン以上**か？

貨物自動車運送事業者等

車両台数等の把握 ……保有車両台数が**150台以上**か？

準備② ～中長期計画に向けて～（25年4月～26年10月）

特定事業者に該当した場合

2026年4月に物流効率化法が全面施行された後、**特定事業者の指定、中長期計画の提出、定期報告、物流統括管理者（CLO）の選任**、といった義務が課せられますが、実際に中長期計画の提出や定期報告を実施するのは少し後になります。

中長期計画の提出 : 2026年10月末予定

作成期間

毎年度提出することが基本だが、中長期的に実施する措置を記載することを踏まえ、計画内容に変更がない限りは**5年に一度**提出することとなる。

記載内容

「**運転者一人当たり一回の運送ごとの貨物の重量の増加**」、「**運転者の荷待ち時間の短縮**」、
「**運転者の荷役等時間の短縮**」に関する、

- i. 実施する措置
- ii. 具体的な措置の内容・目標等
- iii. 実施時期等
- iv. 参考事項

準備③ ～定期報告に向けて～（26年4月～27年7月）

特定事業者該当した場合

2026年4月に物流効率化法が全面施行された後、**特定事業者の指定、中長期計画の提出、定期報告、物流統括管理者（CLO）の選任**、といった義務が課せられますが、実際に中長期計画の提出や定期報告を実施するのは少し後になります。

定期報告の提出（初回）：2027年7月末予定

定期報告の記載内容

- 事業者の判断基準の遵守状況（チェックリスト）
- 関連事業者との連携状況等の判断基準と関連した取り組みに関する状況（自由記述）
- 荷待ち時間等の状況（荷主・連鎖化事業者・倉庫事業者）

定期報告に向けての準備

①実施状況把握

⇒荷待ち時間等の短縮、積載率向上、輸送の合理化等に対する取組状況の**実態把握**

②荷待ち時間等の計測（荷主等）

⇒「荷待ち時間」と「荷役等時間」を分けて計測

取り組み事例紹介

実際の取り組み事例をご紹介します。

取り組み事例① ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社 ～貨物の出入庫量の適正化～

【達成目標】

貨物の量の平準化、受渡日時の集約等により、貨物の出入荷量の適正化を図ること

【課題】

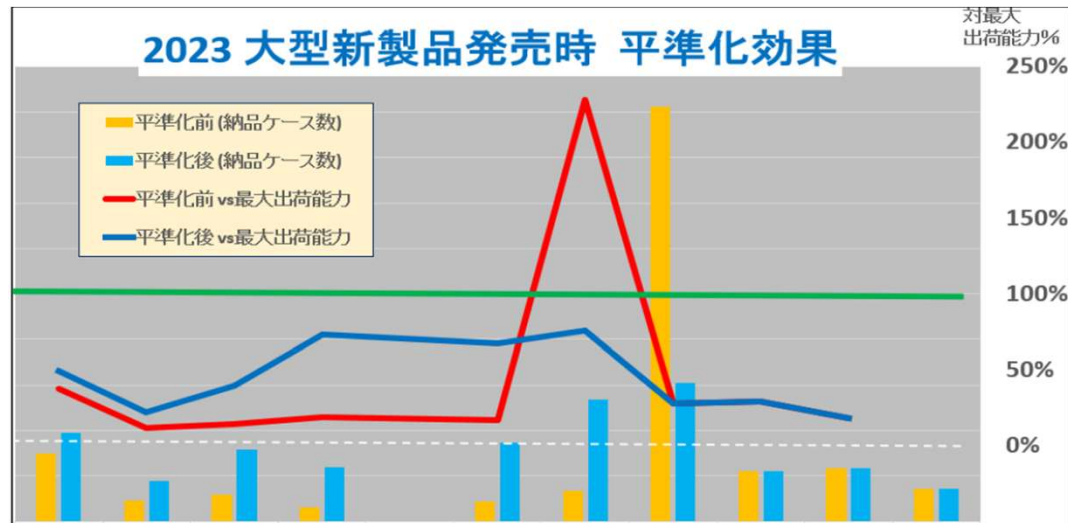
ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社では、新商品の発売の際には出荷能力を超えた納品依頼が一時的に集中する傾向があった。

【取り組み内容】

同社では通常の商品であれば、発注の〆切りを納品日の2営業日前までにしていたところ、大型新商品に関しては発売一ヶ月前～二週間前までに発注を締め切ることによって、波動を調整する取組を実施。

これにより、ピーク時には最大出荷能力に対して230%（トラック約440台分）の需要が集中していたところ、発注を前倒して〆切り出荷量を標準化することにより、最大出能力に対してピーク時でも76%程度に抑えることに成功。

トレーラーの台数削減や実車率の改正、着荷主側での入荷波動の抑制にも繋がった。



※経済産業省 事例集より

取り組み事例② 株式会社バローホールディングス ～トラック予約受付システムの導入～

【達成目標】

トラック予約受付システムの導入及びその適切な活用等により、トラックの到着日時を調整すること

【課題】

小売を主力事業としつつ、物流等の流通関連事業を行うバローホールディングスは、入荷予約システム導入前は、戸外に10台程度の待機車両があった。

【取り組み内容】

入荷予約システムを導入することで、常態化していた早朝の荷待ちを解消。導入前は、戸外に10台程度あった待機車両がほぼゼロとなった。これまでは必要だった待機スペース等を極小化できる副産物も得られた。

加えて、システムにて自動操作もしくは画面上での手動操作にて、接客指示をドライバーに対して連絡できることにより、受付人員の削減が可能となった。更に、配送されてくる商品の荷姿等が把握できるようになったため、庫内作業のスケジュールの組み立てが簡易になった。

導入前



フェンス沿いに**10台程度待機**

画面イメージ



オレンジは現在荷卸中のトラック
青は予約しているもののまだ受付していないトラック
緑は待機中のトラック

SMSでドライバーの携帯へ接客指示が届く

トラックの待機状況等が見える化されるため、システム導入前は複数の受付人員がドライバーに指示を出していたが、**導入後は1人がモニターで指示するのみ**

↓

導入後



9:00の状況

待機車両が**ほぼゼロ化**

【導入前後の課題と改善事項】

	バース予約システムなし	バース予約システム 導入 LEVEL I (現状) LEVEL II (課題)
取引先	<ul style="list-style-type: none"> 運送会社からのクレーム 納品先からの問合せ 	<ul style="list-style-type: none"> システムを用いての予約状況の見える化により、問合せが減少
納品運送業者	<ul style="list-style-type: none"> 待機車両が多く、納品は早い者勝ち（現場はケンカ） 前後の予定が不明 	<ul style="list-style-type: none"> 順番待ちのストレスの減少 時間指定ができることになったことにより、前後の予定が組みやすくなった。
庫内運営	到着後に荷卸し = 作業段取りの組み立ては難しい	<ul style="list-style-type: none"> 作業スケジュールに準じた入荷が可能 = 庫内の労働生産性向上

※経済産業省 事例集より

取り組み事例③ 加藤産業株式会社 ～事前出荷情報と検品のハイブリッド～

【達成目標】

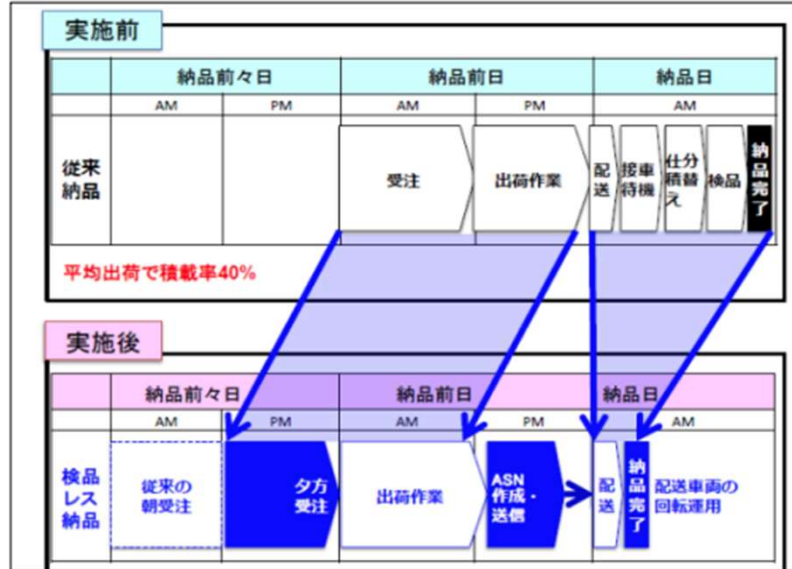
倉庫業者に対して出荷情報を事前に通知すること、検査を効率的に実施するための機械を導入すること等により、検査の効率化を図る

【課題】

納品日前日の午前中までに発注を行い、翌日に納品いただくフローであったが、納品日の荷役作業はユニット毎の荷役であったため荷役時間が長くかかっていた。

【取り組み内容】

- ユニット検品実施にあたり、納品日前々日の午前中までに発注を完了させ、納品リードタイムを1日延長。納品日前日に食品メーカーがユニット毎の品目・数量・賞味期限の情報が記載されているASN（事前出荷情報）データを作成いただき、納品日前日に加藤産業へ送付いただく。
- 納品日の荷役作業はユニット毎の荷役となる為、荷役時間の短縮へ繋がり、ASN（事前出荷情報）データに基づき、品目・数量・賞味期限の確認、入力を省略しユニット毎の納品有無の照会のみ行うため、検品作業の簡略化に繋がった（導入前：荷役・検品時間がトラック1台につき50分要していたが、導入後は20分と60%の時間短縮を実現）とともに、物量を集約したことによる積載効率の向上やCO2削減にも寄与。



← ユニット検品運用フロー図

※経済産業省 事例集より

CLO設置義務化を現場目線で読み解く

CLO設置義務化で現場に何が起きるのか？

CLOに求められる役割（再掲）

- 社会課題解決と地域社会の持続可能性促進
- サプライチェーン全体最適実現のための中長期計画の立案と実行
- 物流オペレーションの効率化とリスク管理
- 改正法に基づく義務等に対する業務



特定荷主・特定連鎖化事業者等に該当するかの確認

- 自社のサプライチェーンにおいて取り扱っている重量の把握



該当！

具体的な改善策の策定

- 下記の項目について現状を把握し、改善に向けた計画を立案
 - ① 荷待ち時間の短縮化
 - ② 荷役等時間の短縮化
 - ③ 積載率向上
 - ④ 輸送の合理化
 - ⑤ 物流データや資機材の標準化
 - ⑥ サプライチェーン全体の連携強化



改善効果の計測とモニタリング

KPIが達成されているか定点観測を実施し、定期報告を行う
(初回は2027年7月)

CLO設置義務化で現場に何が起きるのか？

CLOに求められる役割（再掲）

具体的な改善策の策定も大切ですが、
今回は一番最初に発生しうる
重量の把握についてお伝えします

サプライチェーン全体最適実現のための 中長期計画の立案と実行

- 物流オペレーションの効率化とリスク管理
- 改正法に基づく義務等に対する業務

特定荷主・特定連鎖化事業者等に該当するかの確認

- 自社のサプライチェーンにおいて取り扱っている重量の把握

該当！

具体的な改善策の策定

- 下記の項目について現状を把握し、改善に向けた計画を立案
 - ① 荷待ち時間の短縮化
 - ② 荷役等時間の短縮化
 - ③ 積載率向上
 - ④ 輸送の合理化
 - ⑤ 物流データや資機材の標準化
 - ⑥ サプライチェーン全体の連携強化

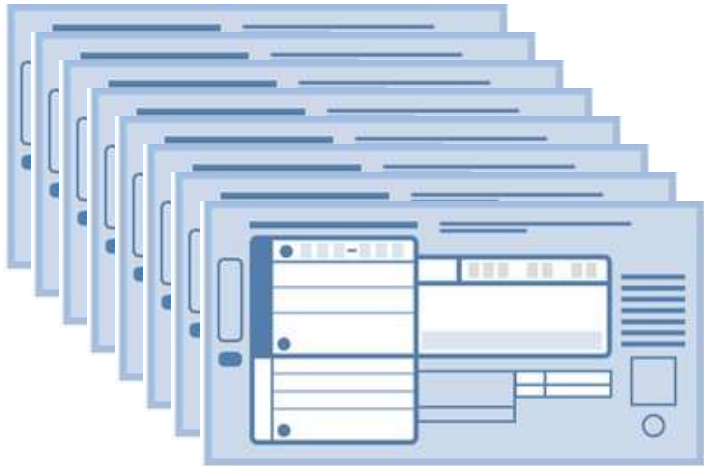
改善効果の計測とモニタリング

KPIが達成されているか定点観測を実施し、定期報告を行う
(初回は2027年7月)

皆さんの重量の把握、どうされていますか？

パターン①

WMSを使用していない場合 …… (例) 帳票に記載された重量を手計算



(出荷件数：5,000件/月の場合)

- 送り状1枚当たりのExcelへの転記 …… 約5秒/件
- Excelの計算 …… 約1分/日
- 帳票の整理 …… 約5分/日



月間 **約9時間** の工数発生

皆さんの重量の把握、どうされていますか？

パターン②

WMSを使用している場合 … (例) ダイアログWMS (「W3 mimosa」標準機能)

デモユニット_preset05 > オーナー管理
オーナー: デモユニット_ps05 | 倉庫: デモ倉庫_ps05

基本設定 取引関連 配送関連 **商品関連**

商品マスタ 商品荷姿マスタ セット品ルールマスタ

CSV 帳票 明細 商品追加・編集 商品TC一括設定 商品マスタ取込 削除 商品マスタ出力

マイフィルタ フィルタなし 保存 クリア

検索エリア

商品コード	商品名1	商品カテゴリ	ブランド	カラー名	商品色	商品単位
A00001	デモ商品A 0 1	カテゴリ1	ブランド1	10		
A00002	デモ商品A 0 2	カテゴリ1	ブランド1	20		
A00003	デモ商品A 0 3	カテゴリ1	ブランド1	30		
A00004	デモ商品A 0 4	カテゴリ1	ブランド1	2		
A00005	デモ商品A 0 5	カテゴリ1	ブランド1	5		
A00006	デモ商品A 0 6	カテゴリ1	ブランド1	10		
A00007	デモ商品A 0 7	カテゴリ1	ブランド1	15		
A00008	デモ商品A 0 8	カテゴリ1	ブランド1	5		
A00009	デモ商品A 0 9	カテゴリ1	ブランド1	20		
A00010	デモ商品A 1 0	カテゴリ1	ブランド1	2		
B00001	デモ商品B 0 1	カテゴリ1	ブランド1	20		
B00002	デモ商品B 0 2	カテゴリ1	ブランド1	10		
B00003	デモ商品B 0 3	カテゴリ1	ブランド1	5		
B00004	デモ商品B 0 4	カテゴリ1	ブランド1	2		
B00005	デモ商品B 0 5	カテゴリ1	ブランド1	10		
B00006	デモ商品B 0 6	カテゴリ1	ブランド1	10		
B00007	デモ商品B 0 7	カテゴリ1	ブランド1	5		

STEP 0 : 商品マスタ設定

基本的にサイズ情報、重量情報等を商品マスタに登録するかと思いますが、
「W3 mimosa」では予備カラム（ここでは「カラー名」）にも重量を登録していただきます。

取扱い重量として計算したい重量を登録

皆さんの重量の把握、どうされていますか？

パターン②

WMSを使用している場合 … (例) ダイアログWMS (「W3 mimosa」標準機能)

The screenshot shows the WMS interface for 'デモユニット_preset05 > 出庫管理'. The '出荷履歴' (Shipment History) tab is active. A red box highlights the 'CSV' button in the top left. Another red box highlights the date filter '表示期間 2025-07-01 ~ 2025-07-31 適用'. The table below shows shipment records with columns for '受注番号', '受注明細番号', 'ヘッダ番号', '明細行番号', '実績行番号', '進捗ステータス', and '明細進捗ステータス'. The '実績行番号' column is highlighted in blue.

受注番号	受注明細番号	ヘッダ番号	明細行番号	実績行番号	進捗ステータス	明細進捗ステータス
SH30002	1	14		1	実績確定	実績確定
SH30002	2	14		2	実績確定	実績確定
SH30002	3	14		3	実績確定	実績確定
SH30002	4	14		4	実績確定	実績確定
SH30002	5	14		5	実績確定	実績確定
SH30001	1	16		1	実績確定	実績確定
SH30001	2	16		2	実績確定	実績確定
SH30001	3	16		3	実績確定	実績確定
SH30001	4	16		4	実績確定	実績確定
SH30001	5	16		5	実績確定	実績確定

STEP 1 : 出荷実績データ出力

計算したい期間の出荷実績データを検索し、
CSVデータにて出力します。

計算したい期間の出荷実績データを出力

皆さんの重量の把握、どうされていますか？

パターン②

WMSを使用している場合 … (例) ダイアログWMS (「W3 mimosa」標準機能)

	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC
1	商品コード	商品名1	指示荷姿	指示数	引当数	出荷実績	当在庫	結引当在庫	在庫引当在庫	出荷明	実績	確定日時	カラー名	重量				
2	A00001	デモ商品A 0 1	1	1	1	1	A	001-001	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		10	10				
3	A00002	デモ商品A 0 2	1	1	1	1	A	001-002	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		20	20				
4	A00003	デモ商品A 0 3	1	1	1	1	A	001-003	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		30	30				
5	A00004	デモ商品A 0 4	1	1	1	1	A	001-004	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		2	2				
6	A00005	デモ商品A 0 5	1	1	1	1	A	001-005	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		5	5				
7	B00001	デモ商品B 0 1	1	1	1	1	A	002-001	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		20	20				
8	B00002	デモ商品B 0 2	1	1	1	1	A	002-002	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		10	10				
9	B00003	デモ商品B 0 3	1	1	1	1	A	002-003	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		5	5				
10	B00004	デモ商品B 0 4	1	1	1	1	A	002-004	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		2	2				
11	B00005	デモ商品B 0 5	1	1	1	1	A	002-005	2021/8/1	良品	2025/7/31 11:5		10	10				
12																		114
13																		
14																		

STEP 2 : エクセルの計算

各商品の出荷数量と重量情報を持ったデータを出力することができるので、
合計重量を計算します。

出荷数量と重量から合計重量を計算

皆さんの重量の把握、どうされていますか？

パターン②

WMSを使用している場合 …… (例) ダイアログWMS (「W3 mimosa」標準機能)



(出荷件数：5,000件/月の場合)

- 出荷実績データの出力 …… 約3分/月
- Excelの計算 …… 約3分/月

月間 **10分未満のみ** の工数発生



月間 **約9時間** の工数削減

※「W3 mimosa」標準機能ではこの方法が可能ですが、
「W3 sirius」であればお客様の用途に応じてカスタマイズ可能です。

どうやっていいか迷った時には・・・

専門家の診断を受けてもいいかもしれません！（以下は、ダイアログの1day物流診断のイメージ）

サービス概要

- 現場の課題を把握するために、専門家が直接物流現場を訪問し、課題抽出を実施
- 物流・ITそれぞれの業界の専門家が、貴社の物流課題を客観的に分析
- 現場訪問から解決のご提案まで最短1週間で提供

アウトプットイメージ

- 診断結果報告書



期待する効果

- 他社と比較し、優れている点と改善すべき点が明らかになる
- 改善すべき方向性が明らかになる
- 複数の課題に対して何から改善すべきかが明らかになる



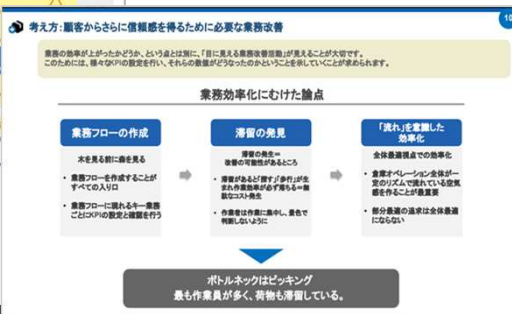
1週間で課題解決の方向性がわかる！



現場を**直接訪問**



物流×ITの専門家



どうやっていいか迷った時には・・・

5S3定、保管、安全、品質、生産性、データ活用の6つのカテゴリと詳細の16の項目から現場を診断、数値化いたします。

カテゴリ	項目	内容
5S3定	整理	不要なものはないか
	整頓	必要なものが必要なところに必要数あるか (定品定量定位置)
	清掃・清潔	清掃が行き届いているか
	しつけ	ルールは守られているか
保管	レイアウト	作業しやすい保管レイアウトになっているか
	保管効率	スペースの無駄はないか
	在庫管理	在庫管理方法は適切か
安全	安全	作業者の安全は確保されているか
	作業負荷	作業者の身体的負担が配慮されているか
	設備	作業環境・設備に不具合はないか
品質	品質管理	作業品質は担保されているか
	人材育成	作業者への教育・評価は適切に行われているか
生産性	作業標準化	標準業務フローは設定されているか
	作業効率化	作業にムリ・ムダ・ムラはないか
データ活用	可視化	業務運用においてデータによる可視化が進んでいるか
	システム	業務運用においてシステムの利活用が進んでいるか

何が課題かわからない

何から改善すれば良いかわからない

自分たちがやってきたことが正しいかわからない



こうすればいいの！

荷待ち時間もお忘れなく！

荷待ち時間短縮に有効な、ツールを調査いたしました。

TMS（トラックマネジメントシステム）

製品名 ベンダー名	運行計画機能（配車、 自動ルート作成など）	ドライバー管理機能 （勤怠・稼働・労務）
TUMIX配車計画 （株式会社TUMIX）	配車計画・受注管理から請求・支払まで一元管理するクラウドTMS。デジタル配車表で手配状況を共有し、配車表・運行指示書等を簡単作成。自動ルート最適化機能はなし（手動配車中心）。	ドライバー管理：運転日報を電子化し勤怠データ取得。ただし健康管理や給与計算等の労務管理機能は特記なし。
ODINリアルタイム配 送システム （株）オンラインコンサル ト）	配送計画立案機能を搭載。スマホで集荷先や配送先を登録し、配送ルート・配車計画をクラウド上で管理。中小運送業者向けに必要な配車管理を提供。自動ルート最適化は特に記載なし。	ドライバー管理：日報自動作成機能あり。勤怠・労務管理の専用機能は記載なし（規模的に勤怠は別途管理の可能性）。
ブッキングブック （株）ブッキングブック）	カレンダー形式の直観的な配車表で、車両・ドライバーの予定を一目で把握。未配車案件を一覧表示し配車漏れ防止。ルート自動最適化機能はなし（手動ドラッグ&ドロップ配車）。	ドライバー管理：ドライバーの配車スケジュール管理が中心。勤怠管理や健康診断記録等の機能は備えていない。
トラックメイト配車Pro （株）タイガー）	運輸業向け基幹システム「トラックメイト」シリーズの配車管理。受注一覧と配車ボードの2画面でドラッグ&ドロップ配車。日/週/月別の配車スケジュールを表示し、自由度の高い配車業務に対応。自動ルート作成なし（経験則+システム支援）。	ドライバー管理：運行実績を労務管理に活用可能（勤務時間管理オプションと連動）。単体ではドライバーの配車割当・台帳管理まで。勤怠やアルコールチェック等は別製品連携。

バース管理システム

製品名 ベンダー名	予約受付・管理機能	バース割当・調整機能
トータル物流基幹 システム AIR（五十鈴）	配送依頼と連動した事前予約管理で複数拠点の入庫時間を一元管理	各拠点の配車状況をリアルタイム把握し混雑を事前回避
MOVO Berth （Hacobu）	Web予約受付に対応（運送会社配車担当やドライバーがスマホから予約申請、倉庫側で確定）	複雑なバース割当パターンにも事前ルール設定で柔軟に自動対応
R-Teams （両備システムズ）	現場ニーズに合わせバース管理・誘導・受付機能を選択導入（予約～入退場を一括管理）	バース状況をリアルタイムに見える化しスムーズに割当
ハコベルトラック簿 （ハコベル）	Webでトラック予約受付に対応（運送会社が倉庫側設定の枠内で予約、倉庫確定でドライバーに通知）	複数拠点での積み下ろし作業も1回の受付で完結し効率的にバース割当
LogiPull （シーイーシー）	トラックの来場予約を軸に倉庫現場の業務計画を最適化	予約情報に基づき搬入ゲート受付や庫内作業と連動したスケジュールを自動生成
TruckBerth （シーオス）	ドライバー/倉庫管理者がスマホ・PCから事前にバース予約可能（IDでログインし即利用可）	倉庫側主導・ドライバー主導など運用に合わせ予約方式を選択可能

DX化に向けた要点

DX化にはツールの導入が便利ですが、下記のポイントを押さえておくことが重要です

1. 業務棚卸とヒアリング

業務の可視化と現場の声を収集、フローチャートなどで可視化

2. 課題の分類と優先度付け

業務時間を増加させている工程を把握し、いくつかの分析軸（例：人／プロセス／システム）で整理

3. 改善方向性の提示

希望される目標を達成させるために現行ツール活用・役割見直し、新ツール導入後の運用支援策等の施策を立案

導入期間をしっかりと確保しておき、進捗管理を定期的に！

SaaS等のツールは情報一元管理、可視化という点において、DX化に必須ですが、導入前に**業務標準化、ルール整備、目的の明確化**が重要です。

ダイアログ・BIPROGYの提供するサービス

ダイアログにおけるCLO設置に向けたサービス

貴社のCLO育成・並びに、新規法令対応コンサルティングサービスをご提供しております。

CLO育成に向けた教育



法令対応システムの
構築コンサルティング



補助金獲得のための
情報収集・書類作成支援



ダイアログのその他サービス

その他、以下実績に基づく全体最適のご提案も可能です。

WMSの導入実績



物流全体の業務設計と
システム構築の経験

ロボットとの連携実績



多数のロボットとWMSの
繋ぎこみの経験

物流コンサルティング実績



物流コンサルタントによる
業務改善の実績

倉庫運営の実績

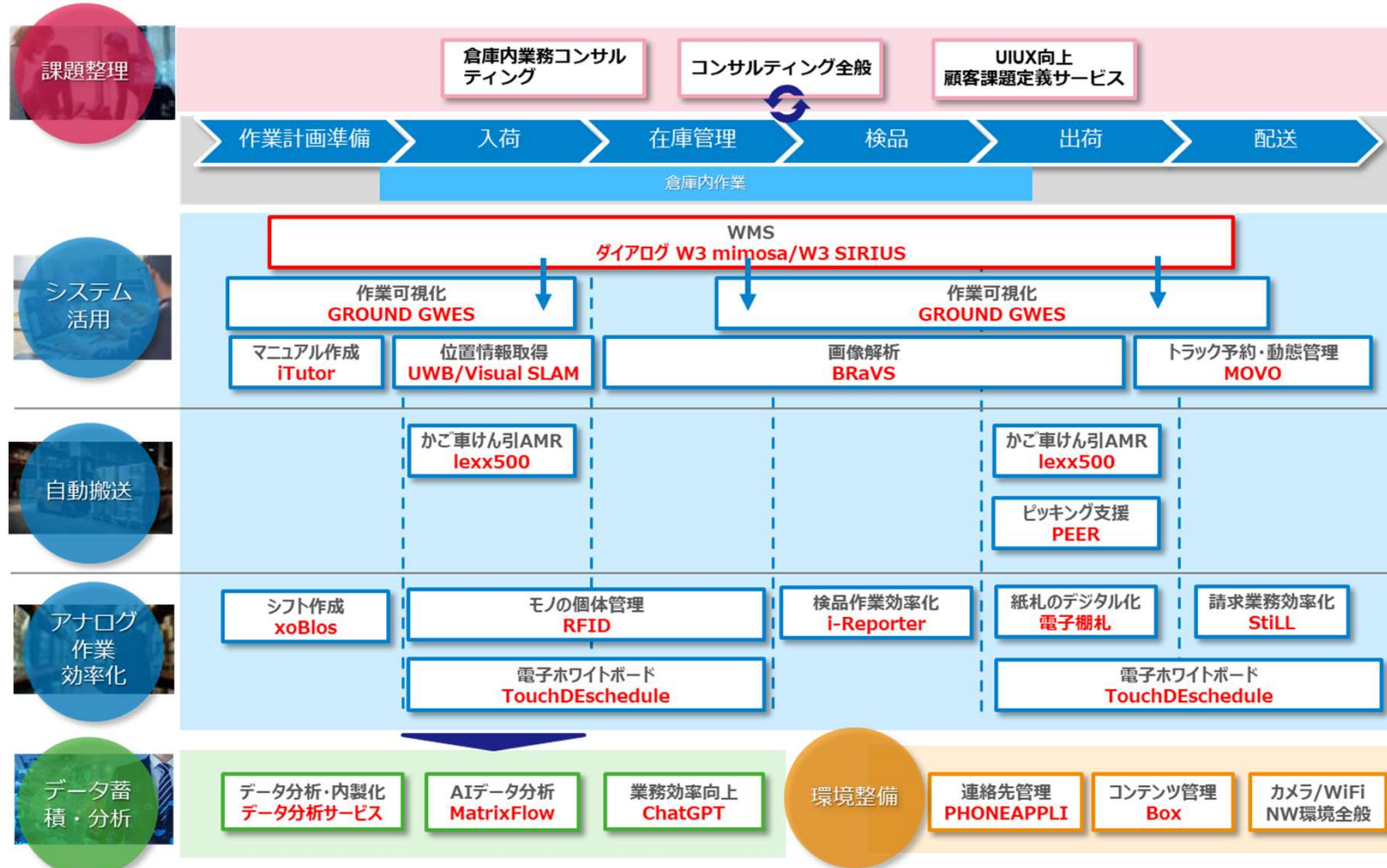


自社倉庫を保有し、複数荷主
管理を行う倉庫運営の実績

ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

BIPROGY取り扱いソリューション

BIPROGYは多種多様なお客様の物流課題に対して様々なソリューションを取り揃え、各お客様に最適なお提案をいたします。



「国際物流総合展 2025 第4回 INNOVATION EXPO」出展のご案内

2025年9月10日（水）～12日（金）東京ビッグサイトにおいて開催される
「**国際物流総合展 2025 第4回 INNOVATION EXPO**」に出展します。

今回取り扱い重量の把握でご紹介したダイアログ社WMS（W3 Sirius/W3 mimosa）をはじめとした、
物流分野での最新の取り組みのご紹介を予定しております。

開催概要

- ・ 開催日時 : 2025年9月10日（水）～12日（金） 10:00～17:00
- ・ 会場 : 東京ビッグサイト（東京国際展示場）南 第7・8ホール ブース番号 : 7-613

展示予定ソリューション、製品・サービス

- ・ クラウド型在庫・倉庫管理システム : 「W3 Sirius/W3 mimosa」
- ・ 物流施設統合管理・最適化システム : 「GWES」（GROUND Warehouse Execution System）
等

お申し込み→<https://www.logistech-online.com/jp/registration.php?exhibitor=EX000157>

皆様のご来場心よりお待ちしております！

End